

第11回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成29年2月2日（木）18時30分～

会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 21名
事務局 7名

1 会長あいさつ

平成29年に入り、早いもので1箇月が経過し、2月になった。正月頃は大変暖かかったが、最近は急に朝晩が寒くなり、私の周りでもインフルエンザや花粉症等により体調を崩している人がいるが、本日出席されている委員の皆さんはご健勝にお過ごしのことと思う。

本日は、第2次光市総合計画の最終案について事務局より説明していただき、その後皆さんから意見をいただくこととしている。各分野の専門知識を有する皆さんからそれぞれの立場で忌憚のないご意見、ご提言をいただきたい。

2 事務連絡

- ・議事の進め方について

事務局から議事進行の考え方等について説明

事務局から平成28年度光市まちづくり市民アンケートの結果について説明

【質疑】

●委員

アンケート結果について、全体を見てどのように捉えているのか。今のままで良いと思っているのか、以前と比べてどのような点が変わったのかなどを説明してほしい。

●事務局

アンケートについては、総合計画の進捗状況を測るために、毎年度実施してきたものである。中身については、これまでの総合計画の中の数値目標における一つの判断材料として活用してきたところである。アンケート結果を数値目標に置き換えて毎年度把握しているが、指標については全般的には概ね順調に推移してきたと考えている。結果については、説明の中で、28ページのところで満足度と重要度の散布図を示したが、その中で、例えば「バス交通網の整備」や「交通結節機能の充実」、「企業誘致、雇用の確保」といったものについて、市民の皆さんのニーズが高いと分析しており、そのようなものについては、総合計画をつくる中で、一つの大きな柱として位置付けているところである。

●委員

行政として今までやってきたことが間違いではなかったということが証明されたという

ことよろしいか。

●事務局

アンケートがかなり広範囲であることから、個別の項目をもって評価することは難しいが、全体としては比較的順調に推移しているという印象は持っている。ただ一方で、30 ページを見てもらうとわかるが、市民の関心事が時代の流れとともに多少変化してきていると感じている。例えば、策定時には、「地震や台風などの災害に対する対策」がトップであり、これは災害が多かったという時代背景がある。前回は「企業誘致、雇用の確保」がトップにあり、これはやはり、市内で大きな倒産等があったことが背景にあると思っている。今回は、「バス交通網の整備」と「交通結節機能の充実」がそれぞれ1番と2番に上がっている。前回も比較的高かったが、策定時と比較すると高齢化などに伴って市民の足の確保が求められていることが背景にあると思っている。これを受けて、地域公共交通網の計画策定やバス路線網の見直しなどの取組みを並行して進めている状況である。やはり時代の背景に応じて市民の関心事も多少の上下は出てくると思っている。

●委員

わかった。市民アンケートの実施にはかなりのエネルギーが必要であると思うが、出てきた結果をいかに行政に反映させるかということが一番大事であり、そのためには単にやって終わりではいけないと思っている。

●事務局

アンケートは、市民意見を反映する方法の一つであるが、他にも市民対話集会など様々な手法があるので、このような市民の声は行政にしっかりと反映していきたい。

市民アンケートに関して我々が今一番危機感を持っているのは、回収率である。今回初めて40%を切っていることから、回収率を上げるための具体的な取組みを進めていきたい。

●委員

回収率は低いですが、回答者の割合を見ると、高齢者が多く、若年層が少なくなっており、若い人だけの結果を見ると、また結果も変わってくると思う。例えば年齢別の結果を見ることはできないのか。

●事務局

報告書は、あくまで一定の分量の中で整理する必要があり、このような見せ方になっているが、年齢別や地域別のクロス集計結果についてもデータを持っており、分析はしている。報告書には表記されていないが、年齢別、地区別、男女別での意見に違いがあることは把握している。ただ、先ほど申し上げたように、この市民アンケートは全ての市民の声を聞くための手法の一つではあるが、他にも様々なルートで市民の声を把握しており、それぞれ対応していきたい。

●委員

アンケートの結果は、第2次光市総合計画に反映されているのか。

●事務局

満足度や重要度は、資料の24ページ以降に、第1次総合計画の成果と評価として整理を

している。これらを踏まえて計画を策定させていただいたので、ご理解いただきたい。

3 議題

(1) 第2次総合計画について

事務局より資料に基づいて説明

【質疑】

●委員

感想を申し上げさせていただく。基本目標のタイトルについて、あまりにも形容詞が多すぎると思う。もっと簡潔にした方が良く思う。

基本目標1は「市民力・地域力が花開くまち」、基本目標2は「心温かい人が育つまち」、基本目標3は「安全・安心に暮らせるまち」、基本目標4は「自然と都市が調和したまち」、基本目標5は「活力とにぎわいが行き渡るまち」、基本目標6は「ゆたかさを創出するまち」で良いのではないか。

●事務局

策定の途中で、我々の思いについては、伝えてきたところであるが、ここはやはり「ゆたかな社会」を目指すということで、「ゆたか」という言葉にこだわって、あえて入れたので、ご理解いただきたい。

●委員

全体的にはこれで良いと思う。先般、教育大綱にパブリックコメントを出した。題名としては「教育大綱と総合計画の関係」である。なぜ、総合計画の中に、「教育大綱」という言葉を入れていないのか。教育大綱を作るときには、教育振興基本計画を同時につくるのか、それとも教育振興基本計画は総合計画と兼ねているのか。その辺りをお聞きしたい。高等学校再編の問題も出ているが、光市は他の市と比較して教育は遅れていると思う。高校の数が減ると、市内の子どもがどんどん市外へ出て行ってしまう。教育振興基本計画が策定されていないのは県内13市中4市だけである。総合計画の中に「教育大綱」という言葉が一つもないのはいかがか。もっと教育を大事にしてほしい。

●事務局

他の市では、総合計画の中に位置付けているものもあるが、光市では、教育大綱と教育振興基本計画を作る方向で動いている。パブコメ結果については、2月25日付け広報で公表されることから、もう少し待ってほしい。この場で教育大綱に対する意見への回答を申し上げるのは控えさせていただきたい。

●事務局

教育大綱との整合という面では、十分すりあわせをした上で、プロジェクトの中に考え方を取り入れている。

●委員

追加資料の2番目について、光市民憲章の下に3つの都市宣言を置いているが、都市宣

言の内容はどこに掲載されているのか。

●事務局

本冊を1枚めくってもらくと、3つの都市宣言の内容を記載している。

●委員

先ほど教育大綱の話が出たが、教育大綱の中身については、総合計画の中に散りばめられていると思っている。ただ、前回も申し上げたが、108ページの主要な事業例で「次世代型コミュニティスクールの推進」とあるが、これが何を指すのかわからない。教育大綱を見れば分かるのかも知れないが、総合計画の中でわかるようにした方が良いと思う。

●事務局

次世代型コミュニティスクールについては、前回もお尋ねをいただいたため、教育委員会にも確認したところである。最終的には巻末につける用語解説の中で整理させていただくが、次世代型コミュニティスクールについては、現在、学校を核として、家庭や地域が一体となって進めている横の連携に、中学校区を単位に幼・保・小・中の縦の連携を加えたものを指すと認識している。今のシステムをさらに進化させていこうとするものである。

●委員

それは今やっていることである。用語解説だけではなく、文章の中にも入れたほうが良いと思う。また、家庭教育の支援についても、大綱の大きな目玉として出てきていたと思うが、107ページの「家庭教育の支援」が、事業例の中でも同じ言葉が出てきており、これは整理が必要ではないか。

細かいことになるが、108ページの光市民学の説明のところで「光を探求する学び」とあるが、ここは「探求」ではなく「探究」ではないか。また、106ページの主要な事業例の中にある「教員の研修機会の充実」については、「教員」ではなく「教職員」の方が良いと思う。

●事務局

コミュニティスクールについては、107ページの「コミュニティスクールの活用と充実」の中で、コミュニティスクールの水準を維持、向上させていくことを示している。また、教育委員会とも最終的な調整をしたい。事業例の文言については修正させていただきたい。

●委員

私は慣れていないので、内容についても入り込みにくい部分もあったが、終了後のグループトークや、専門部会などにより、身近に感じられてわかりやすくて良かった。今後も、若者の声を聞く取組みを続けてほしい。

●事務局

これからも、こういった会議の場だけでなく、色々な場面で意見をいただきたいので、引き続きよろしく願い申し上げる。

●委員

18ページのアンケート結果を見てもわかるように、UJIターンを促進するためには「しごと」が必要であり、地場産業への支援や企業誘致が必要である。

また、高齢化が進む中、車がなくても生活できるようなまちにするため、将来を見据えて、どのような取組みが必要かをよく考えてほしい。

●事務局

前半の話については、先ほど説明したとおり、市民アンケートで分析した市民のニーズにおいて、企業誘致は常に上位にある。また、市民協議会における意見でも、そのようなものが多かったことから、第2次光市総合計画においてもプロジェクトに位置付けて、行政としても一生懸命努力していく。

後半の話については、まさに今我々が目指しているコンパクトなまち、歩いて生活できるまちづくりが一つの手法であると考えている。具体的にはコンパクトなまちづくりに向けて、来年度以降「立地適正化計画」を策定しようとしているので、その中でしっかりそのような将来像を目指して進めていきたい。

4 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・本日いただいた意見を踏まえて、最終的な内部調整を行い、3月議会に上程する
- ・次回会議は4月頃を予定している